

土佐清水ジオパーク構想の可視化の変遷と これからのジオパークの空間づくり

2014年よりジオパーク活動を開始してから現在まで、認定を目指す過程で作成した視覚資料を整理し、ジオパークの伝え方の変遷をたどり、今後、ジオパークとして目指すべき情報の伝え方や空間のつくり方について提案していきます。

- 1 土佐清水ジオパーク構想可視化の変遷
- 2 近年の可視化の取り組み
- 3 これからのジオパークの空間づくり
- 4 まとめ



制作者 土佐清水ジオパーク推進協議会
事務局員 作田愛佳



解説・批評
ジオパーク少年

*この発表には個人的見解が含まれます。

1. 土佐清水ジオパーク構想可視化の変遷

初期 2014年～2016年 申請までの準備期間

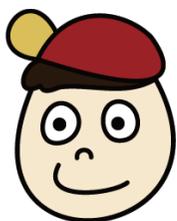
ロゴマーク公募、ジオパークを目指していることを知ってもらうことが目的。
デザインや景観へはあまり意識が向けられていない

中期 2017年～2018年 2年連続の申請、
そして、2度の認定見送り

ジオパークの認知度向上、
審査への対応を意識した可視性の確保

現在 2019年～2021年 3度目の挑戦まで

ジオパークの表現方法の模索
表現方法の多様化
地域の特性・価値を踏まえた可視化へ



ここでは、土佐清水でジオパーク活動が始まってから現在までの広報物やPRグッズなどを見ながら、活動やジオパークの捉え方の変化などを追っていくよ。

1. 土佐清水ジオパーク構想の可視化の変遷

初期 2014年～2016年 申請までの準備期間

制作物

- ロゴマーク
- 「めざせ！ジオパーク」看板類
- 「めざせ！ジオパーク」のぼり旗
- 「めざせ！ジオパーク」ポロシャツ
- 旧リーフレット



ジオパークの捉え方・活動内容

- 観光の起爆剤！
- 地域のお宝発見！
- ジオガイド養成講座



のぼり旗は安価に可視性を確保できるけど、景観や環境に悪影響を与える場合もあるから、デザインや材質、設置方法には気をつけたいね。



この頃は、まだデザインの方向性が決まっていなかったし、とりあえず、地域でジオパークという言葉やロゴマークの認知度を上げることが目的だったのかも。地域の大地の価値を明らかにする前に公募でロゴマークを決めたこともあって、土佐清水らしいモチーフのツバキがかわいいけど大地の要素が含まれていないね。あと、色数も多くて、形も複雑だから、いろんな場面で使いにくそうだね。

可視化の目的

- 「ジオパーク」という言葉の普及啓発
- ロゴマークの地域への浸透
- 認定に向けた地域の盛り上げ



1. 土佐清水ジオパーク構想の可視化の変遷

中期 2017年～2018年 2年連続の申請、そして、2度の認定見送り

制作物

- ・旧ウェブサイト
- ・案内看板
- ・ノベルティグッズ

ジオパークの捉え方・ 活動内容

- ・ジオガイドツアー造成
- ・ジオパークとしての価値の整理
- ・持続可能な視点やSDGsが少しずつ取り入れられはじめる。
- ・郷土愛による「人づくり」
※ジオパークでこそできる人づくりにはまだ踏み込めていなかった…

可視化の目的

- ・認定に向けた地域の盛り上げ
- ・認定に向けてのアピールというの少なからずあり…



デザインは初期の頃より、だいぶ洗練されてきたし、きれいな景色の写真とかいいけど、まだジオパークがどういうものなのかとか、ジオパークのおもしろさとかが伝わってこないかも。

1. 土佐清水ジオパーク構想の可視化の変遷

現在 2019年～2021年 3度目の挑戦まで

制作物

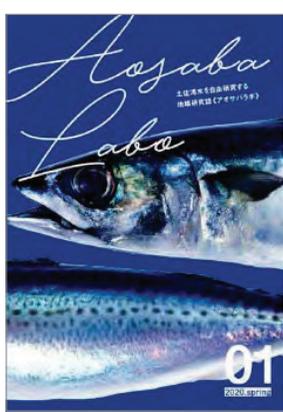
- 新パンフレット
- 新ウェブサイト
- サイト解説板
- フリーマガジン

ジオパークの捉え方・ 活動内容

- 竜串ビジターセンターを拠点とした活動
- 研究者と連携した学術資料の蓄積
- 魅力的なストーリーづくり
- 地球科学をベースとした人づくり
- ジオパークの理念の可視化

可視化の目的

- ジオパークという単語だけでなく、ジオパークの本質を伝える。
- 地球科学をはじめとする科学のおもしろさを伝える。
- サスティナブルな価値観を伝え、それに基づく行動を促す。
- ジオパークに関わる人たちの思いを伝える。
- ローカルアイデンティティの構築。



内容はともかく、デザインがだ
いぶぶっとんだ感じになって、個
性が出てきたね。でも、全体的な
統一感はないから、土佐清水GP
構想のものわかるような統一感
はあった方がいいよ。



それぞれの誌面の内容やジオ
パークの理念についての表現に
も独自性や奥行き、作り手の
メッセージが感じられるかも。

2. 近年の可視化の取り組み

- 大地の成り立ち
- ジオパークの理念
- ジオパークの目的とビジョン
- メッセージ性を高め、問題提起型のデザインに

ここでは、2度目の認定見送り後からの可視化の取り組みを振り返るよ。2度目の審査で、「地域の価値の整理」という課題を指摘されたこともあり、わかりやすいストーリーづくりを様々な分野の専門家と一緒に作りあげていったよ。また、抽象的でわかりにくいジオパークの理念や、大地の成り立ちなどの地球科学的なプロセスなどをイラストを用いて、わかりやすく説明したり、行動を促すメッセージ性を強めたり、土佐清水ジオパーク構想やジオパークそのものの魅力をいろんな表現手段で伝えていったよ。

作成物

パンフレット、サイト解説板、サイト解説アプリ、WEBサイト、拠点施設展示、フリーマガジン、広報とさしみずジオパークだより、ジオツアー宣伝チラシ、各種イベント（観察会、モニターツアー、つくって食べる食堂）etc…



2. 近年の可視化の取り組み

大地の成り立ち

サイエンスデザイナーのササオカミホさんと作成。
 情報をぶつ切りにせず、時間の流れと空間を一体的に表現。



サイエンスデザイナー
 ササオカミホ氏

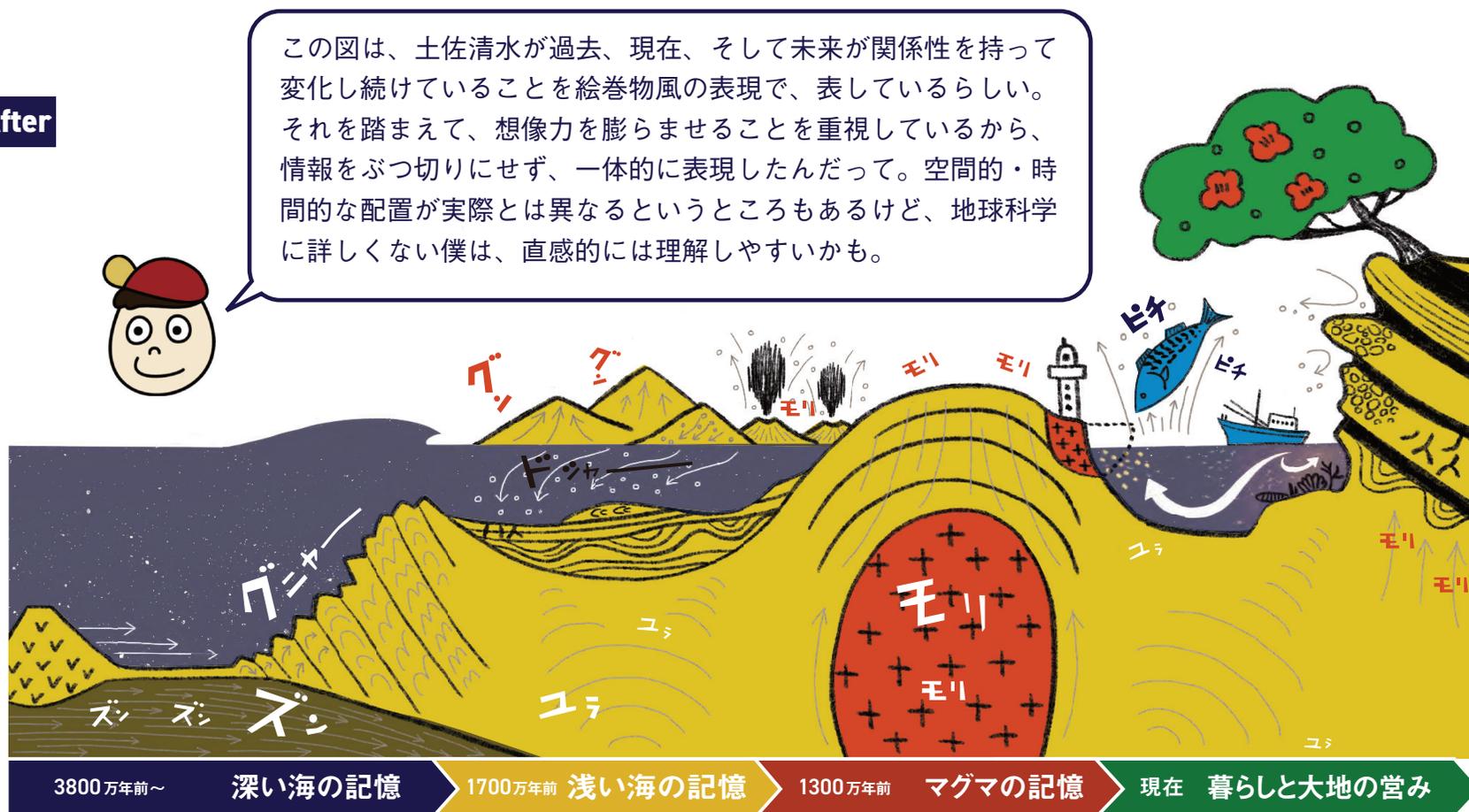


SASAMI
 GEO
 SCIENCE, inc.

Before



After



2. 近年の可視化の取り組み

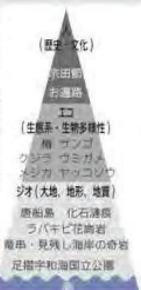
ジオパークの理念

ユネスコ世界ジオパーク作業指針をもとに、ジオパークの理念やジオパークで伝えるメッセージをイラストを用いて可視化&簡潔な言葉で言語化した。

Before

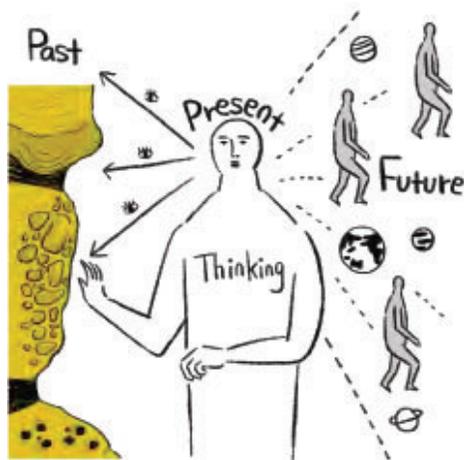
ジオパークとは？

ジオパークとは、地球の恵みや歴史を楽しく学ぶ自然の公園です。大地の成り立ちをはじめ、歴史や文化、動植物、食べ物、人々の暮らしの価値を再発見し、多くの人と共有することで、地域の活性化や教育、防災などに役立ちます。土佐清水の各地にある見どころ(ジオサイト)では、大地・動植物・人のつながりをジオストーリーとして体感することができます。頼て、楽しく学び、感じる場所。それがジオパークです。土佐清水では、郷土の誇りの醸成と地域の振興・活性化などを目的として、平成29年度の日本ジオパーク認定を目指しています。



After

地球の記憶は未来への道しるべ



大地の物語を感じよう

詳しくは、土佐清水ジオパーク構想のWebサイトのジオパークについてのページにいろいろのってるって。



変化する大地で生きる

2. 近年の可視化の取り組み

ジオパークの目的とビジョン

地域でジオパークに取り組む目的、地域にもたらすことができる価値についての全体像と具体的事例をイラストと文章で示した。

自然の恵みと知恵を
明日へつなぐ人づくり

ツバキの木とその周りで行われるジオパークに関わる活動でいい土壌を作り、さらに大きな木に育っていく様子で地域の持続可能な発展を表現してるんだね。



- みつける
- あつめる
- まもる
- そなえる
- つたえる
- つなげる
- うるおす



2. 近年の可視化の取り組み

メッセージ性を強め、問題提起型のデザインに。

ジオパークで伝えたいメッセージや、ジオパークを楽しむためのコツなどを織り交ぜたものに。また、サイト解説版と位置情報アプリを連動させ、歩きながら、答えを探せるものに。

せっかくだから、ジオパークのパンフや解説板を見た人にジオパーク的な楽しみ方をして欲しくて、そのヒントを伝えるようにしたよ。



生き物の気配

一足元を見つめる

遺跡や洞窟など、生き物の暮らしの痕跡が化石となったものを生痕化石といいます。地層に目を凝らして見ると、スノモグリの間隙(エビに似た甲殻類)が果実の内殻を構築した痕跡や、コカイの仲間が子房を成すための卵手を採した痕跡といった、生き物たちのソラがなまじりかが見えてきます。1000万年前の海底の様子を想像してみましょう。

変化する大地

一足元を見つめる

海岸や岩礁の独特な景観は、風化・侵食作用によって作り出されます。打ち寄せる波は少しずつ岩を削ります。海水が岩の間にしみ込むと、海水に含まれる塩が結晶となって岩の隙間を押し広げ、やがて岩に亀裂の穴を開けます。こうして亀裂の深さは年々少しずつ変化しているのです。現在の景観から、過去、そして未来の姿を想像してみましょう。

生きている大地

一足元を見つめる

竜巻・風強い海岸で取り巻くゴブーンに成形した地層は、海面が低くなるはずなのに陸地による海成作用の痕跡です。竜巻・風強い海岸の地層ができていた。大地は今よりもずっと美しく彫刻されていたと推測されています。日本列島は大陸から切り離され、今の位置まで急速に移動していたためです。そんな激動の時代を想像してみましょう。

土佐清水ジオパーク構想からのメッセージ

地球の記憶は未来への道しるべ

地球の活動がつくりだした地質・地形遺産は、私たちの暮らす惑星「地球」の進化の歴史を教えてくれるもの。今、ここで見られる地球の「記憶」のカケラから、大きな時間の流れを感じてみましょう。それは、きっと、私たちの未来への道しるべとなる大切なことを教えてくれるはずですよ。

大地の物語を感じよう

地球の営みによってできた大地は、そこに広がる豊かな生態系や私たち人間の暮らしを支えています。人々を取り囲む様々なものが大地に積ざし、そして相互に複雑にかかわりながら、地域ごとに独自の景観や文化をつくりだしてきました。大地の物語を紐解きながら、土佐清水をめぐってみましょう。

Tabularashi Coast

Walk and Think
考えながら歩く

地震・津波が発生したら
In case of an earthquake
避難経路は、赤いラインに必ず避難経路へ避難し
Follow the indicated route (red line) to the evacuation shelter
27号避難所は、海沿いへの避難経路から徒歩約10分、28号避難所は徒歩約15分、29号避難所は徒歩約20分です。
27, 28, 29 evacuation shelters are located about 10, 15 and 20 minutes away from the beach by foot respectively after the beach is evacuated.

生きている大地：地震

The Living Earth: Signatures of Earthquakes

変化した地層は、過去に何が起きたかを語りかけているのでしょうか？
地層の断層を視覚的に再現してみましょう。
The earth can tell us about the changes it has undergone over the years.
What do you think the rock patterns are telling us?

変化する大地：風化・侵食

The Changing Earth: Weathering and Erosion

地層の独特な景観は今も変化し、続いています。
過去の、そして未来の形を想像してみましょう。
The Tabularashi Coast is still changing.
Imagine what the past shape of Tabularashi was and what shape it will take in the future.

生き物の気配：生痕化石

Signature of Life: Trace Fossils

人が暮らすよりずっと前に、地球上に暮らしていた生物の活動から生物の気配を探ってみましょう。
Trace fossils are record of animal activities.
Let us think about their lives with their fossilized burrows!

アプリの使い方

How to use the mobile app

QRコードをスキャンしてQRコードを読み取り
Scan the QR code to access the app
アプリを開く
Open the app
アプリの使い方
How to use the app
アプリの使い方
How to use the app

メッセージ

Message

大地に刻まれた地球の記憶
その記憶は未来への道しるべとなる大切なメッセージです。
The message of the past becomes a key to the future.
Using the message presented in TOSASHIMIZU, we will create a message for the future.

土佐清水ジオパーク構想

Toshashimizu Geopark Plan

土佐清水ジオパーク構想実行委員会
TOSASHIMIZU GEOPARK PLAN
土佐清水ジオパーク構想実行委員会

3. これからのジオパークの空間づくり

コンセプト

大地と対話し、思考できる空間に。

- ▶ **統一感のある可視性の確保**
VI（ヴィジュアルアイデンティティ）の作成
ロゴマークの手直し
- ▶ **知覚の細部まで意識を向ける**
聴覚、嗅覚、体性感覚など
- ▶ **余白のある伝え方**
- ▶ **風土・景観に配慮した空間づくり**



コンセプトのフレーズが抽象的で、胡散臭いけど、他にいいものが思いつかなかった
ので、ご容赦ください。



ここでは、土佐清水がエリア全体を「土佐清水ジオパーク」という一つの空間として価値を高め、来訪者へのよりよい体験の提供と、住民もエリアに誇りを持ち、心地よく過ごせるよう、可視性だけでなくエリア全体の「空間づくり」という視点で、問題提起していくよ。

3. これからのジオパークの空間づくり

ヴィジュアルアイデンティティ (VI) の作成

VIとは？

Visual Identity | ブランドの価値やコンセプトを可視化したシンボルやロゴデザイン、ブランドカラー、指定書体などブランドを象徴するデザイン要素を総称してVIという。

現状

ロゴマーク及びカラーは活動当初に作成しているものの、それらの使用方法について明確な決まりはないため、デザインの作り手によって様々な運用がされており、その時々によって統一感のない使い方がされている。今後、ブランドイメージや認知度向上のためには、日本ジオパーク認定を機にそれぞれの見直しを行い、統一的なVIを作成を検討していくべき。

VIの例 (ポカリスエット)



https://www.missiondrivenbrand.jp/entry/kaitai_branddesign

ロゴマーク



Tosashimizu Geopark Plan

フルカラー



Tosashimizu Geopark Plan

モノクロ



単色

問題提起

色数や造形が複雑なため、モノクロに対応しておらず、用途が限られ、他のデザインにも干渉する。また、「地域の価値」やジオパークのコンセプトが不明瞭な時期に作成されており、大地の要素などジオパークならではのものが見出しにくい。

解決策

ロゴマークは、地元の中学生のデザインが元となっていることや、地域でも認知度があり、愛着を抱いている人も多いことから、根本的な見直しではなく、元のデザインをベースに簡素化するなどの磨き上げをすることで対応すべきか。また、地域の価値やテーマ明らかになった今、ロゴマークだけでなく、エリア全体の視覚デザインを見直すべき。

3. これからのジオパークの空間づくり

大地と対話し、思考できる空間に。

視覚以外の知覚への配慮

問題提起

ジオパーク拠点施設やその他の観光施設では館内BGMをはじめ、プロジェクションマッピング等の装置の操作音等様々な音が流れている。時に音は、イメージを想起させ、思考を中断させることなどにつながる。(例えば、J-POPやディズニー、ジブリのオルゴールやボサノバアレンジ、有名なクラシック音楽などは曲に付随するイメージを想起させられ、思考が中断することになりやすい…) BGMや効果音も情報の氾濫につながり、静かに対象に向き合う時間と思考を奪っていく。静かに対象と向き合うべく、その場所や風土にあったミニマムな環境音楽を作れないだろうか。視覚、聴覚だけでなく、嗅覚や体性感覚など、その場所にそぐわない余分な情報が入らないように気をつけたい。



例えば、アーティストインレジデンスみたいな感じで、現代音楽なんかの作家さんにエリアに滞在してもらって、場所の音をサンプリングしたりして、いろんな施設のBGMとか作ってもらったらエリア全体として統一感もできていいかもね。

余白のある伝え方

問題提起

近年人気のアニメ作品やドラマなどには、心情などを事細かく説明し、共感や感動を促すような表現方法が増えたと感じる。また、「わかりやすさ」のみが求められ、「わかりにくい」「難解」というのは悪であるような風潮がある。ただ、このような分かりやすく、説明的すぎる表現方法や伝え方というのは、受け手が想像し、思考する楽しみを奪うことにもつながる。無理にキャッチーなフレーズなどを作らずとも、科学的な事実を淡々と伝えるなど、大地に身を委ね、静かに対話する方法を提案していきたい。



私は、映画『2001年宇宙の旅』がとても好きなんですけど、あそこまで説明を削ぎ落として、ただただ時空間の壮大さと不思議という感覚に向き合うジオパークってのもいいんじゃないかと思っています。ただ、かなり、人を選びますが…

3. これからのジオパークの空間づくり

大地と対話し、思考できる空間に。

風土・環境に配慮した空間整備

問題提起

ジオパークとして、よりよい空間を作るためには、解説板や遊歩道の整備を行う際などはできる限り、土地に耳を傾け、環境や景観の観点からもその土地にあるものや、調和するものを用いるべきである。現在、当地域でも環境美化のために整備された遊歩道沿いの草花などが、その周辺で確認できない植物が植えられていることがあるほか、目立つことを優先し、景観や場所にそぐわない掲示物なども散見される。植栽されている植物や看板等もその地域の景観や独自性を作り出しているものであるため、風土や環境に配慮したものとなるよう、関係者等で認識を共有していく必要がある。



のぼり旗、看板、横断幕デザイン・設置事例



例えば、いろんなところで見るとのぼり旗もよくある化繊のものじゃなくて、高知らしく、「フラフ」とか「大漁旗」みたいなものにしてほしいよね。

4. まとめ

1 土佐清水ジオパーク構想可視化の変遷

初期～中期 ジオパークという言葉の認知度向上を目的にしたもの

現在 地球科学的現象やジオパークの理念や目的を可視化し、深い理解を促すものに

2 近年の可視化の取り組み

サイエンスデザイナーとの協働でのヴィジュアルエイドの作成。

メッセージ性を持った問題提起型のデザインに。

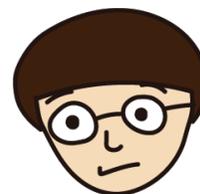
3 これからのジオパークの空間づくり

VIの作成など、エリア全体での統一感を持たせる

知覚の細部まで意識を向ける

余白のある伝え方、大地との対話

風土・景観に配慮する



土佐清水では、地域のジオパークとしての価値の整理やストーリーづくりができる前に、ロゴマークの作成などの可視性の確保を行なった経緯があります。「ジオパークを目指す」といったことを掲示物などで示して、地域を盛り上げることも必要かもしれないけど、まずは、地域の価値をしっかりと整理しておいた方が、後々、掲示物の作成や可視化をする時に統一的にスムーズに行えると思いました。また、今後のブランディングのためにも可視性の方針やVIなどデザインのコンセプトをしっかりと作って運用していくことが必要だと思います。